

役立つホームページ一覧

国立医薬品食品衛生研究所安全情報部
山本美智子
NTT東日本関東病院 薬剤部長
折井 孝男

ここでは、医薬品情報や診療ガイドライン、薬剤師の関連団体・学会などのホームページを紹介します。国内外から幅広く、臨床業務・情報収集に役立つホームページを集めましたのでご活用ください。なお、各ホームページのURL情報などはすべて2007年2月現在です。

1. 薬剤師関連団体など	97	6. 患者向け医薬品情報	105
2. 承認薬情報、添付文書情報	99	7. 診療ガイドライン	108
3. 医薬品集、評価情報	100	8. モノグラフ	109
4. 公的機関からの安全性(副作用)情報	103	9. 医薬用語	110
5. 治験薬情報	105	10. メーリングリスト	110

1. 薬剤師関連団体など

①日本薬剤師会

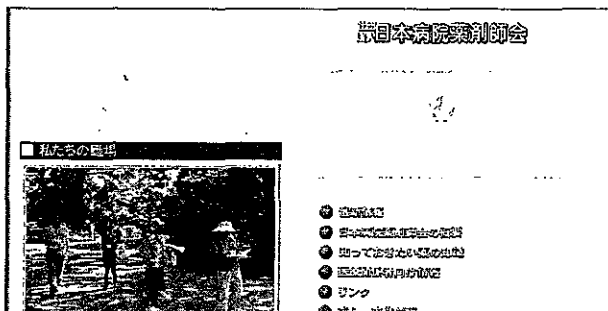


▶ <http://www.nichiyaku.or.jp/>

日本薬剤師会は、約10万人の薬剤師会員を擁する職域団体。さまざまな職種から構成されているが、会員の約70%を薬局薬剤師で占める。

会員向けに、医薬品データシート(主に後発医薬品の情報)、DSU(添付文書の改訂情報)の解説、新薬紹介、このほか薬局業務・教育などに関連した資料を提供している。

②日本病院薬剤師会



▶ <http://www.jshp.or.jp/>

日本病院薬剤師会は、会員数約3万4,000人の病院や診療所などの医療機関に勤務する薬剤師の団体。具体的な活動としては、学会、講演会、研修会の開催、機関誌などの発行を行っている。

がん専門薬剤師、感染制御専門薬剤師認定制度を設けている。

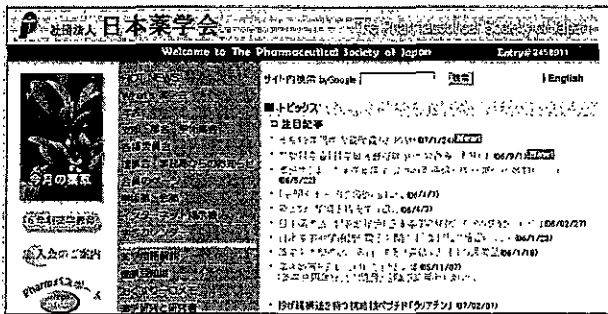
③日本医療薬学会



▶ <http://www.jsphcs.jp/>

日本医療薬学会は、会員数約5,000人の学術団体。病院・薬局薬剤師に加え、大学関係者から構成されている。医療薬学分野の充実を目指しており、学会誌「医療薬学」を発行している。認定薬剤師、指導薬剤師の認定制度を設けている。

④日本薬学会

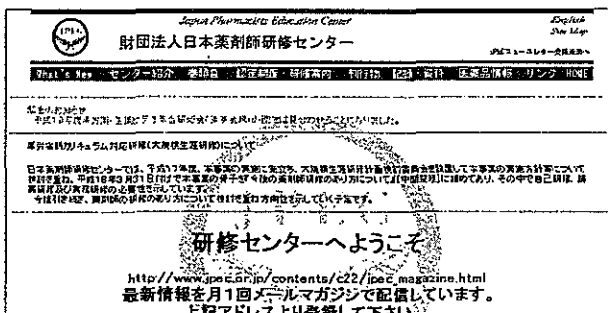


▶ <http://www.pharm.or.jp/>

日本薬学会は、薬に関係する研究者や技術者の学術団体で、2万人以上の会員数を擁する。「ファルマシア」、「薬学雑誌」などを発行している。

ホームページには、医薬系のトピックス、薬学用語解説、薬学教育に関する情報が掲載されている。

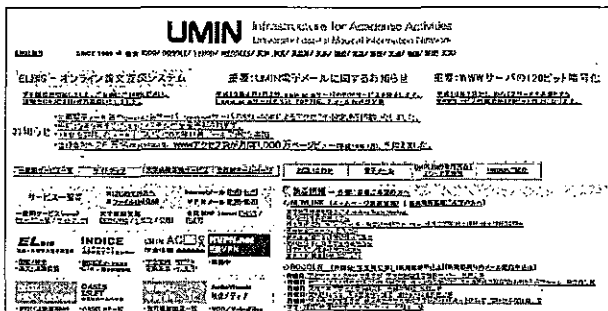
⑤日本薬剤師研修センター



▶ <http://www.jpec.or.jp/>

日本薬剤師研修センターは、薬剤師の資質向上のため、各種研修会の開催、研修認定薬剤師の認定、学習用の書籍・教材の刊行などを行っている。研修認定薬剤師制度を設けている。

⑥大学病院医療情報ネットワーク (UMIN) 【要登録】

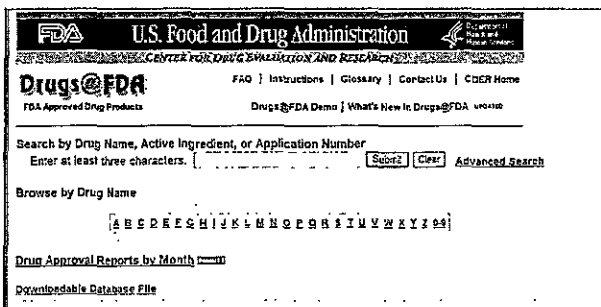


▶ <http://www.umin.ac.jp/>

UMINは、東京大学が管理する大規模かつ公的な医療情報ネットワークである。UMINの目的は、最新の医学・医療情報の提供、大学病院間の作業の共同化、医学・医療上の交流および医学研究の支援などである。登録利用者数は26万人にのぼる。

2. 承認薬情報、添付文書情報

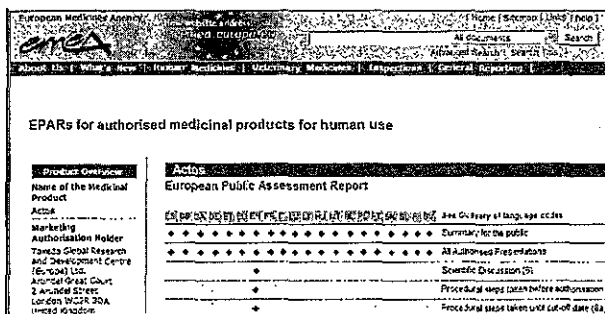
① Drugs@FDA [米国]



▶ <http://www.accessdata.fda.gov/scripts/cder/drugsatfda/index.cfm>

「Drugs@FDA」は、FDAが提供する米国の処方せん医薬品およびOTC医薬品などの承認に関する情報が網羅されている。添付文書（Label）情報、先発品に対するジェネリック医薬品情報およびそれらの生物学的同等性に関する情報、1998年以降に承認された消費者用情報、承認歴およびFDAの措置に関する情報などである。また、発売中止になった薬剤も含まれている。商品名、一般名、承認番号、承認日またFDAの措置（通知）日などで検索が可能である。

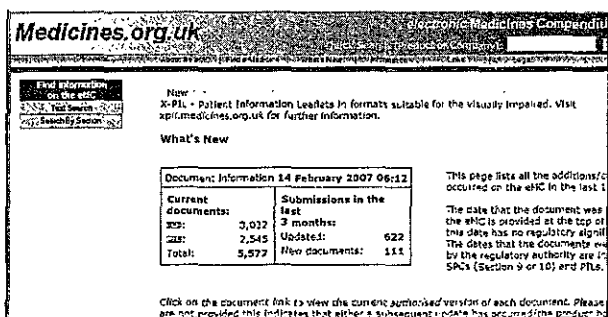
② 欧州医薬品庁（European Medicines Agency；EMA） CHMP（Committee for Medicinal Products for Human Use）



▶ <http://www.emea.eu.int/hums/epar/eparintro.htm>

EMA CHMPから医薬品に関する情報として、EPARs（European Public Assessment Reports）が公開されている。EPARsは、個々の医薬品の中央承認審査におけるCHMPの科学的結論を反映した評価文書で、EU各国の言語で提供されている。ほかに製品情報として、SPC（Summary of product Characteristics）、添付文書（Labelling）、パッケージリーフレットなどが含まれる。

③ eMC（electronic Medicines Compendium）[英国]



▶ <http://emc.medicines.org.uk/>

英国eMCは、英国製薬産業協会（Association of the British Pharmaceutical Industry：ABPI）提供のサイトで、処方せん医薬品およびOTC医薬品について、各製薬会社によりSPC（Summary of Product Characteristics）医療従事者用、PIL（Patient Information Leaflet）患者用情報が用意されている。2007年2月現在、SPCは約3,000件、PILは約2,500件が掲載されている。一般名、商品名、会社名から検索可能で、テキストサーチも用意されている。

④ 医薬品医療機器総合機構

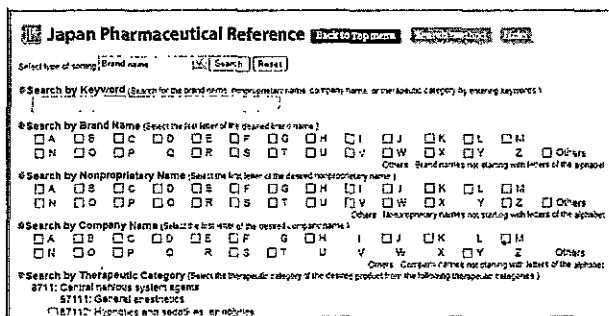
医薬品医療機器情報提供ホームページ [国内]



▶ <http://www.info.pmda.go.jp/>

「医薬品医療機器情報提供ホームページ」では、医薬品の承認情報および添付文書情報が提供されている。承認情報では、新薬、一般用医薬品および医薬部外品の承認審査に関する情報のほか、医療用医薬品品質情報集目リスト、医療用医薬品再評価結果、抗がん剤併用療法に関する報告書の情報、市販直後調査に関する情報などが提供されている。過去1カ月以内に改訂された情報や添付文書一覧のリストも参照できる。

⑤医療用添付文書英語版
(Japan Pharmaceutical Reference) [国内]



▶ <http://www.e-search.ne.jp/~jpr/>
国内の添付文書情報の英文版が、「Japan Pharmaceutical Reference」として、日本製薬工業協会から提供されている。検索したい医薬品は、商品名、一般名、会社名のアルファベットのリストから、また薬効分類リストから選ぶことができる。

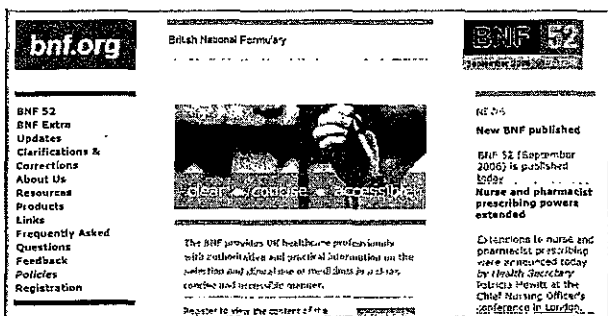
⑥セルフメディケーション・データベースセンター [国内]



▶ <http://jssm-db.info/>
「セルフメディケーション・データベースセンター」では、一般向けに、一般用医薬品・新指定医薬部外品の検索が用意されている。症状、薬効分類、成分名、製品名、メーカー名および剤形から検索が可能である。

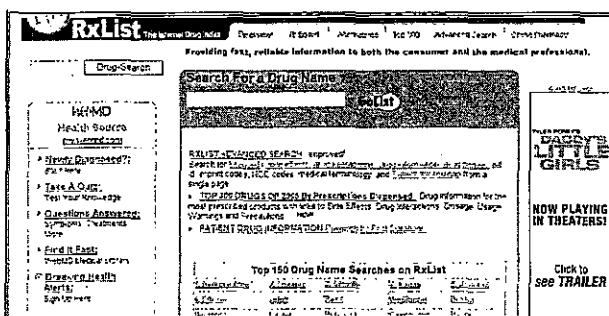
3. 医薬品集、評価情報

①BNF (British National Formulary) [英国]【要登録】



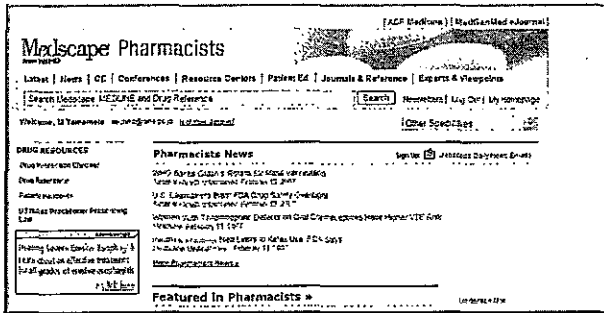
▶ <http://www.bnf.org/bnf/>
「BNF」は、主に医師、薬剤師のための医薬品の処方情報とその個々の医薬品に関する情報集(データベース)である。英国医師会および英国王立薬剤師会の共同サポートのもとに作られており、疾患名および薬剤名から利用できる。Appendixには、相互作用に関して薬物動態や力学的見地からの解説がある。医薬品相互にリンクされており、相互作用の原因が記されている。

②RxList [米国]



▶ <http://www.rxlist.com/>
「RxList」は、米国の処方薬の添付文書集である。米国で、前年度に多く処方された薬のリスト(300品目)や、多く検索された医薬品のリストも参照可能である。

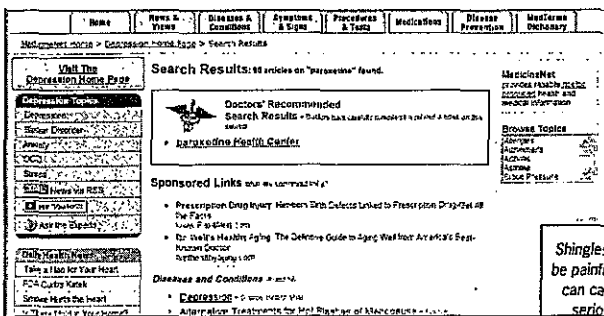
③Medscape (米国)



▶ <http://www.medscape.com/druginfo>

Medscape社のサイトでは、First DatabankのNDDF (National Drug Data File) とASHP (American Society of Health-System Pharmacists : 米国医療薬剤師会) による医薬品のファクトデータが検索できる。副作用、薬物間相互作用および薬と食品との相互作用が重篤度に応じてランク付けされ、その根拠も参照可能である。

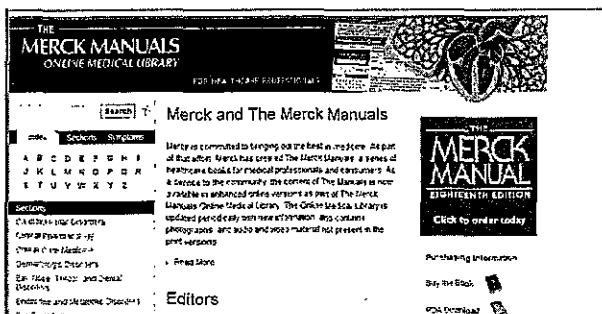
④MedicineNet



▶ <http://www.medicinenet.com/>

「MedicineNet」は、ヘルスケアに関する出版社のサイトである。医薬品(商品)名で検索すると、その治療対象疾患情報、薬物治療情報、ニュース、辞書のカテゴリーに対して、MedicineNet (WebMD) 内の情報を中心にリストアップしてくれるので、広範な情報が入手可能である。

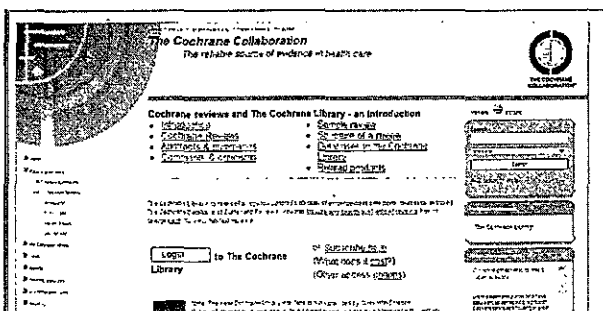
⑤メルクマニュアル



▶ <http://www.merck.com/mrkshared/mmanual/home.jsp>

米国メルク社発行の「メルクマニュアル」は、世界で最も広く利用されている医学書の一つで、標準的な治療が示されている。英語版、日本語版 (<http://merckmanual.banyu.co.jp/>)、家庭版がある。

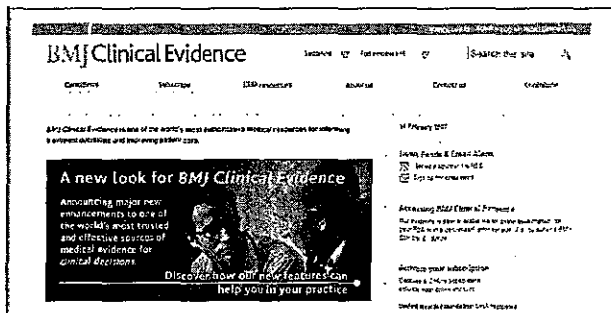
⑥コクランライブラリー (Cochrane Library) 【有料】



▶ <http://www.cochrane.org/reviews/elibintro.htm>

「コクランライブラリー」は、コクラン共同計画によるEBMの手法を用いたデータベースで、無作為化比較試験を中心とした臨床試験の系統的レビュー-CDSR (Cochrane Database of Systematic Reviews) など8種類のデータベースを収録している。データは年4回更新される。有料サイトであるが、レビューの抄録は公開されている。

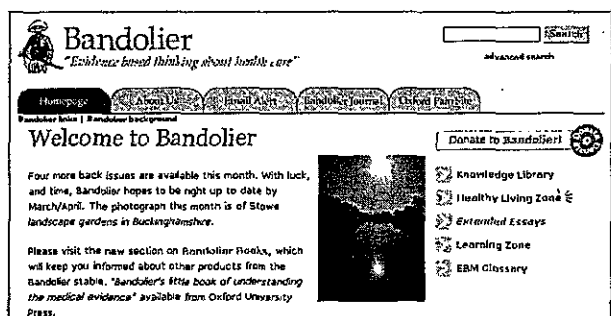
⑦BMJ Clinical Evidence 【有料】



▶ <http://www.clinicalevidence.com/>

「BMJ Clinical Evidence」は、診療上の疑問を一般医から募集し、そのテーマについて主にMEDLINEとEmbaseから文献検索を行い、一定の基準を設けて採用された文献を批判的吟味し、まとめたエビデンス集である。治療法の有効性をランク付けしている。年に2回改訂され、翻訳が約1年遅れで刊行されている。

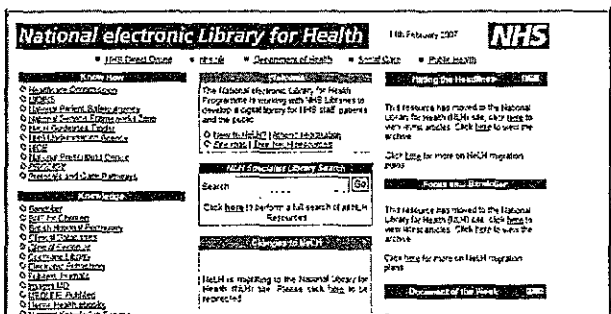
⑧Bandolier 【英国】



▶ <http://www.jr2.ox.ac.uk/bandolier/index.html>

「Bandolier」は、英国Oxfordの科学者チームによるエビデンスに基づいたレビューのヘルスケア誌で、毎月刊行される。EBM用語集も掲載されている。

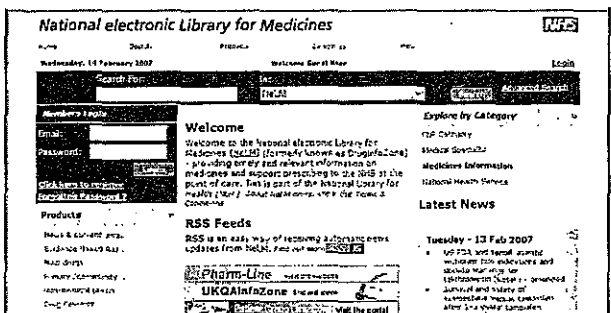
⑨NeLH (National electronic Library for Health) 【英国】



▶ <http://www.nelh.nhs.uk/>

英国の「NeLH」は、英国の電子医療情報基盤として、臨床家の判断支援のための最新の知見に基づいた方策や知識を提供するためのEBMリソースライブラリーである。ユニークな試みとして、新聞のニュース記事になった医学・健康に関する新たな知見などに対し、ヨーク大学CRD (Centre for Reviews and Dissemination) がEBMの考え方にに基づきその知見を検証し、一般の人にわかりやすく解説しているコーナーがある。

⑩NeLM (National electronic Library for Medicines) 【英国】



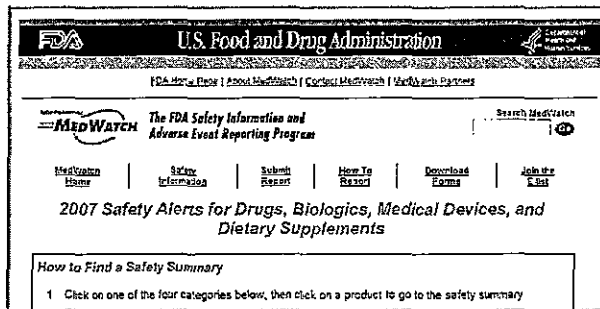
▶ <http://www.nelm.nhs.uk/>

英国の「NeLM」は広範な医薬品ノレッジベースで、ニュース、最近の知見、医薬品のレビューなどの情報を提供している。NeLMはNeLHの一部である。ジャーナルの記事の要約を、医薬品情報専門の病院薬剤師が担当している。また、各医療機関からの問い合わせ、NHS Directへの支援、批判的吟味など教育やトレーニング方法の提供も行っている。

メーリングリスト登録可。

4. 公的機関からの安全性（副作用）情報

①米国食品医薬品局（Food and Drug Administration；FDA）

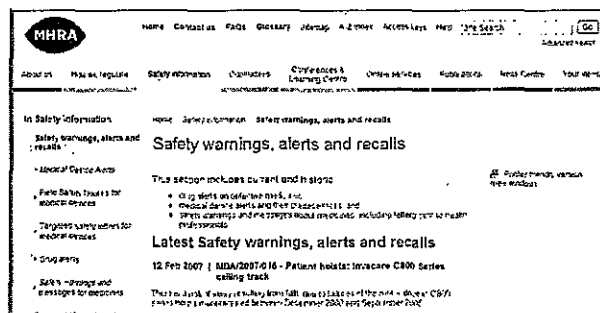


▶ <http://www.fda.gov/medwatch/>

FDA MedWatchの「Safety Information」では、FDAが関与する医薬品の安全性情報が網羅されている。医薬品の警告情報、回収情報、公衆衛生勧告（Public Health Advisory）、ラベリングの改訂などである。「Index to Drug-Specific Information」では、安全性情報が出された医薬品を中心に、患者用、医療従事者用情報シートが用意され、医薬品ごとに情報が集約されており、大変参考になる。そのほかに、「FDA Patient Safety News」、「Medication Guides」などへリンクしている。

メーリングリスト登録可。

②MHRA（Medicines and Healthcare products Regulatory Agency）〔英国〕

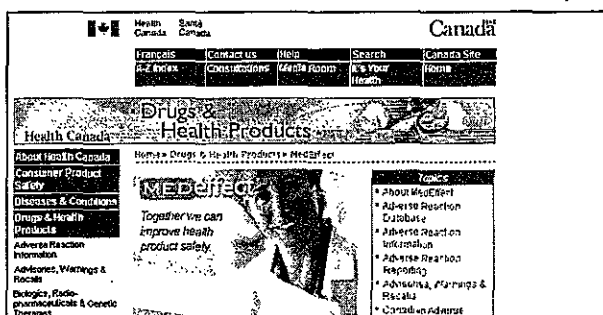


▶ <http://www.mhra.gov.uk/>

MHRAから発出される医薬品の安全性情報は、「Safety warnings and messages for medicines」のページに掲載され、警告およびドクターレターを含む通知などが入手可能である。また、医薬品の安全性のレビューとして、「Current Problems in Pharmacovigilance」がブレティンとして不定期に出されている。

メーリングリスト登録可。

③Health Canada〔カナダ〕

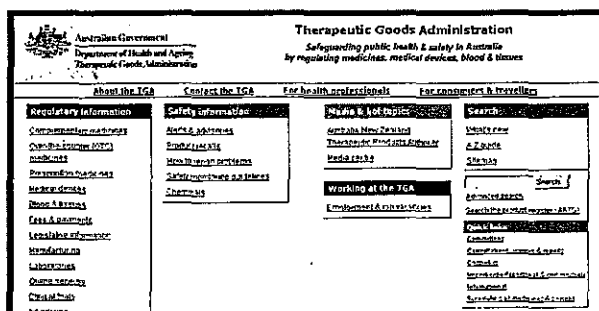


▶ http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mpps/medeff/index_e.html

Health Canadaは「MedEffect」のページに安全性警告、公衆衛生勧告、プレスリリース、医療従事者および消費者への製薬企業からの通知を掲載している。Health Canadaの場合、医療従事者向けに出された多くの情報が、その後すぐに「For the Public」として消費者にも提供されている。ほかに、Canadian Adverse Reaction Newsletterが3カ月ごとに発行されている。

メーリングリスト登録可。

④TGA〔オーストラリア〕

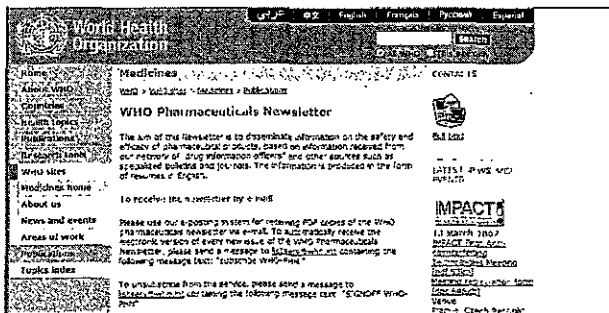


▶ <http://www.tga.health.gov.au/>

オーストラリアの政府機関TGA（Therapeutic Goods Administration）から、隔月で「Australian Adverse Drug Reactions Bulletin」が発行されている。妊娠時の処方薬のリスク分類の冊子は、<http://www.tga.health.gov.au/docs/html/medpreg.htm>から入手できる。

メーリングリスト登録可。

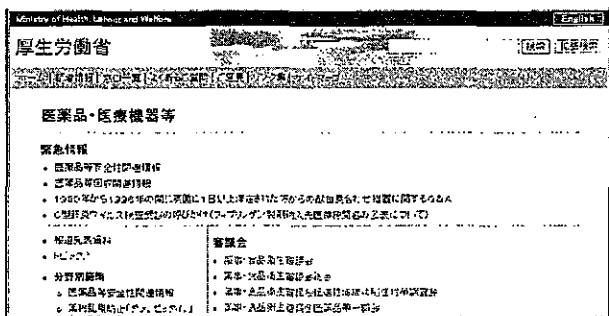
⑤WHO Pharmaceuticals Newsletter



▶ <http://www.who.int/medicines/publications/newsletter/en/> [WHO Pharmaceuticals Newsletter] は、WHOから年に5～6回発行される医薬品の有効性と安全性に関する情報誌で、ネットワーク各国からの規制報告および関係するジャーナルなどの記事が含まれる。

このほかに、「WHO Drug Information」(<http://www.who.int/druginformation/>)が年4回発行されている。WHOのコメントが巻頭に掲載され、医薬品国際一般名称(INN)、Essential drugsに関する情報も掲載されている。メーリングリスト登録可。

⑥厚生労働省〔国内〕

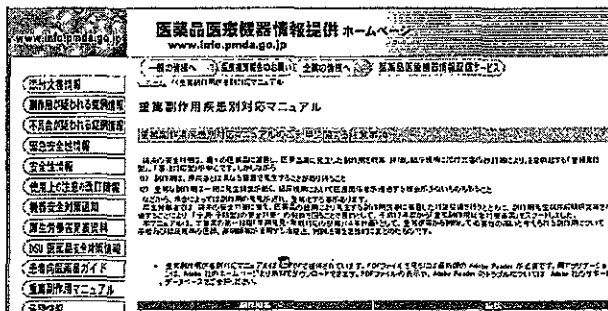


▶ <http://www.mhlw.go.jp/> 厚生労働省の「医薬品・医療機器等」のページに、医薬品等安全性関連情報、医薬品等回収関連情報などの緊急情報、報道発表資料、トピックスおよび各審議会の議事録などが掲載されている。

また、厚生労働省法令等データベースシステム (<http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/index.html>) において、関連する法令・通知等の検索が可能である。

⑦医薬品医療機器総合機構

医薬品医療機器情報提供ホームページ

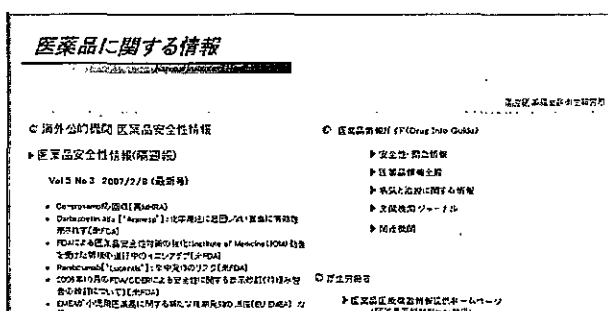


▶ <http://www.info.pmda.go.jp/> 「医薬品医療機器情報提供ホームページ」に、緊急安全性情報、医薬品・医療機器等安全性情報、使用上の注意の改訂指示およびDSUが提供されており、ほかに副作用が疑われる症例報告に関する情報も検索可能である。横紋筋融解症や間質性肺炎などの重篤な副作用疾患別の対応マニュアルも参照可能である。

メーリングリスト登録可(ただし、医療関連の組織単位での登録)。

⑧国立医薬品食品衛生研究所

医薬品安全性情報(海外公的機関情報)〔国内〕



▶ <http://www.nihs.go.jp/dig/jindex.html>

国立医薬品食品衛生研究所の安全情報部では「医薬品安全性情報」として、英国、米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、WHOなどの海外の公的機関などから出される医薬品に関わる重要な安全性情報について、日本語の概要などをつけて隔週で2002年より提供している。

ほかに、医薬品情報ソースを集約したポータルサイトとして Drug Info Guideを提供している。